

緑のカーテン実験 編集後記

未収穫だった窓⑨、窓⑩については、寒気の訪れとともに葉っぱが茶色く枯れていきましたが、12月9日（金）に開催した「農場ユークルチャーデー」まで参考展示し、閉会后、夜のとばりがおりてくる中、収穫しました。葉が既に枯れていたため、実験データとしては記録しておりません。イモについては、2日後の12月12日（月）に重さを計測しました。（窓⑨窓⑩の区別はしておりません）

ちなみに窓⑨はネット延長分、窓⑩は一部が窓⑨のネット延長分からみつき、一部は玄関ひさしの上に這いました。

イモの重さは写真の並びかたで次のとおりでした

1. 29kg	1. 62kg	1. 45kg	1. 56kg
1. 54kg	1. 31kg	1. 08kg	0. 16kg
1. 39kg	0. 79kg	1. 20kg	1. 77kg



2日間で、イモが少し乾いたことを差し引いても、収穫を3週間遅らせた効果は見られませんでした。沖縄のように気温が高い状態が続くのであれば別の結果がでるのかもしれませんが、精華町においては収穫適期は11月10日前後と考えて良いと思われます。

なお、葉が枯れて、葉を沢山落としたツルのイモは、0. 16kgでした。緑のカーテン実験の御指導をいただいた京都府立大学資源植物学研究室の本杉教授にお聞きすると「**大きすぎるイモが直売所で売りにくいのであれば、イモを大きくさせたくなければ、葉をある程度落としてしまえばいい。高級ブドウは葉を何枚まで残す、芽、房を摘心といった高度なレベルで管理をしている。大衆作物であり、かつ、栽培の省力化をアピールポイントにしているダイショにはそういった高度な次元の管理はそぐわないし、また、特に緑のカーテンとしての利用を考えた場合、折角茂った葉を摘心することは本末転倒であるが、葉の数の指標が出来、それに沿って管理すれば大きすぎないイモを作れるでしょう**」ということでした。